

氏名・職名	大隅 清陽 教授	
キーワード	古代 甲斐国 遠距離交通	
所属学会	史学会 日本史研究会 木簡学会 法制史学会	
受賞歴	第42回野口賞(郷土研究部門)	
研究者から一言	<p>本来の研究対象は、7～10世紀を中心とする、いわゆる律令制時代の国家・政治制度ですが、1997年に山梨大学に赴任してからは、その応用問題として、現在の山梨県に相当する古代の甲斐国(かいのくに)の地域史の研究にも取り組んでいます。</p> <p>20年に及ぶ研究の一端をまとめた著書『古代甲斐国の交通と社会』(六一書房、2018年)に対しては、第42回野口賞(郷土研究部門)をいただく栄誉に浴しました。</p>	

(1)私の古代地域史研究の特色は、甲斐国の特色を、列島規模の遠距離交通を含む交通体系のなかで考察している点にあります。

(2)太平洋沿いの街道である東海道と、本州内陸部の山国を東へと進む東山道、この何れにも接していない甲斐国は、かつては、外部との交流を閉ざされた奥深い山国と考えられていましたが、実際は、東海道と東山道を結ぶ交通の結節点として、多くの人々や物資、情報の行き交う要衝の地でした。

(3)『古事記』『日本書紀』に見える伝説の英雄ヤマトタケルは、東征の帰路に甲斐国の酒折宮に立ち寄ったとされていますが、このことは、古代の甲斐が、都の人々にも知られた交通の要衝であったことを示しています。また、現在の郡内地方である都留郡は、もともとは相模国の一部だったのですが、たまたま郡内を通っていた御坂路が、7世紀の末に、国家の管理する東海道の支路として整備されたため、甲斐国に編入されることになりました。

(4)このように、交通という観点から古代の甲斐を考えることは、現在の山梨県の地域的な特色を考えるうえでも有効だと考えています。

山梨県の地域史に関しては、一般市民のレベルでは、武田信玄を中心とする武田氏への関心がとりわけ高く、それ以前の歴史は、ともすれば軽視されてしまう傾向もあるかも知れません。

しかしその一方で、古代史や考古学に対する県民の関心にも根強いものがあります。

古代の甲斐の地域史は、生涯学習や研修のコンテンツや、文化を通じた地域振興の企画、歴史・文化ツーリズムによる観光資源の開発などの形で、さまざまな社会貢献の可能性のあるものと考えています。

適用、活用できる分野のイメージ

- 市民講座や各種研修での講師
- 官公庁やNPOにおける文化を通じた地域振興策への助言
- 歴史・文化ツーリズムにおける観光資源の開発への助言
など

技術シーズについてのお問合せ、ご相談先

E-mail: renkei-as@yamanashi.ac.jp

Tel: 055-220-8758 Fax: 055-220-8757

